

シネマチュプキが存続危機

コロナの影響で経営難

寄付グッズ販売に活路

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、全国の小規模映画館（ミニシアター）で客足が途絶え経営難に陥っている。政府の緊急事態宣言が発令された後は、休館が相次いでいる。障害の有無に関わらず、皆が一緒に楽

しめるユニバーサルシアター「CINEMA Chupki TABATA」（ミニシアター）で客足が途絶え経営難に陥っている。政府の緊急事態宣言が発令された後は、休館が相次いでいる。障害の有無に関わらず、皆が一緒に楽

視覚障害があっても映画を楽しめるよう配慮した「CINEMA Chupki TABATA」



さん(49)によると、来館客は2月から徐々に減ってきたという。3月は、日本アカデミー大賞を受賞した「新聞記者」を上映していたため、減り幅を抑えることもできた。しかし、3月末に東京都から外出の自粛要請が出るのと、1日の

て、緊急事態宣言を受け、8日からの休館を決めた。平塚さんは「前年度と比較して3月は6割、3月末から4月8日は9割、収入が減りました」と、声のトーンを落とす。

平塚さんは、存続に向けて行動を起こしている。ミニシアターの活動資金をクラウドファンディングで募る、映画監督・深田晃司さんが発起人のプロジェクト「Mini Theater AID」に加

や人件費の補填を国に要望するプロジェクト「#Save The Cinema」「ミニシアターを救え!」にも参加した。一方、City・Lightsも映画館のホームページに寄付を募るサイ

このホームページは、Chupki完成までを書いた平塚さんの本「夢のユニバーサルシアター」の音訳版の購入ページもある。音訳は平塚さんが担当しており、「本を読んでサポーターに関心を持つ人が増えてほしい」と呼びかける。ゴールデンウィーク中にウェブで映画を楽しめるイベントも計画中という。詳しくは、同館

03・6240・8480、chinema.chupki@gmail.com)。

【深田健】